

平成28年度 愛媛大学 英語教育センター

英語プロフェッショナル養成コース 講演会

グローバル社会のサバイバル

英語がないと話にならない・英語だけでは生き残れない

平成29年 2月17日(金) 9:30~



お問い合わせ & 参加希望受付 窓口

英語教育センター事務室 (愛大ミュージズ2F)



講演会趣旨

背景
来年度は、英語プロフェッショナル養成コース創設9年目となります。今年度は、海外研修プログラムも充実し、またプロフェッショナル個人の活躍も大変目立った年でした。そこで、9年目となる来年度にさらなるプロフェッショナルの活躍を後押しできるよう、キャリア意識向上を目指した講演会を実施することになりました。

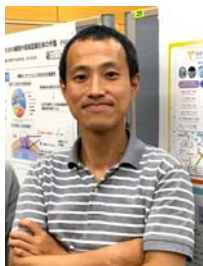
目的
本講演会は、英語プロフェッショナル養成コースに在籍する学生及び平成29年度コース生への登録を希望する学生を主な対象として(定員50名)、グローバルに活躍できる人材となるためには、どのようなスキルを身に付ける必要があるのか、その理解を深めるための講話と、実際にグローバル・コミュニケーション・スキルを判定する英語の試験(OPIc)を実施し、将来に向けたキャリア意識の向上を図ることを目的としています。

なお講演では、バイオベンチャー企業のシンガポール研究所の立ち上げや、海外大手製薬企業との共同研究などグローバルな研究活動に取り組んでおられる愛媛大学プロテオサイエンスセンターの竹田浩之先生をお迎えし、自身の経験を教材に、まさに今、そして今後、必要とされるグローバル人材像についてお話しいたします。

講演終了後は、希望者(定員25名)に、実際にOPIcを受験してもらい、従来型の「正解」を制限時間内に導き出す試験とは異なった、「(既有知識を活用し)何をどのように」伝えるかが問われる試験を通して、現在の自分がどのくらい、そうしたスキルを求められる環境に対応できるのか、体験してもらう予定です。

本講演会とOPIc受験を通して、参加学生の皆さんが、早い段階で、目指すべき目標を設定できることを期待しています。

講師ご紹介



竹田 浩之 愛媛大学プロテオサイエンスセンター・准教授
1976年徳島県生まれ。2004年広島大学大学院生物圏科学
研究科博士課程修了。2004年 生物情報解析研究センター・
特別研究員。2006年 株式会社オキシジェンクス・研究員。
2008年 京都大学農学研究科・特定研究員。2011年 愛媛大
学無細胞生命科学工学研究センター・助教。2013年 愛媛大
学プロテオサイエンスセンター・助教。2016年4月より現職。
研究テーマ: 無細胞タンパク質合成技術を活用した創薬支援
技術開発。薬の作用点であるタンパク質を作る技術をベース
に、新しい薬を作るための技術開発を行っています。

OPIc試験概要

対象言語	英語
テスト時間	約60分(オリエンテーション20分、テスト最大40分)
出題内容	Background Surveyを通じて個人に合わせた問題を出題 例えば、職業、レジャー、趣味、関心事、スポーツ、旅行などのトピック
評価基準	ACTFL※ Proficiency Guidelines-Speaking OPIc level 1~7 (Novice Low ~ Advanced Low)
問題数	12~15問(個人によって異なる)
テストの特長	•さまざまな方法で「話せる」状況を実現 •実践的なコミュニケーション力を測る評価方法 •高い利便性
評価要素	•Function / Global Tasks (コミュニケーション継続能力) •Text Type (文章構成力) •Contents / Context (状況に応じた表現力) •Comprehensibility (質問意図の把握能力) •Language Control (文法・語彙・流暢さ・発音) 上記の5項目について、評価領域に偏らず、受験者の会話を総合的に評価

講演会日程

- 09:30~ 開会のあいさつ & 講師ご紹介
中山 晃 (愛媛大学英語教育センター)
- 09:40~ 講演
「グローバル社会のサバイバル」
竹田浩之 先生 (愛媛大学プロテオサイエンスセンター 准教授)
- 10:40~ 開会のあいさつ
長崎睦子 (愛媛大学英語教育センター)

OPIc試験日程

- 11:00~ OPIc試験(午前の部): 約60分
13:30~ OPIc試験(午後の部): 約60分

*それぞれの部の終了後に、受験後の感想をインタビュー形式でお聞きします。

OPIcとは?

外国語コミュニケーション能力評価テストのグローバルスタンダード (OPIc)

外国語でのコミュニケーションに必要とされるのは、単純に文法や語彙をどれだけ知っているかではなく、実際のビジネスや生活の場でいかに効果的で適切に言語を使えるかです。OPIc(Oral Proficiency Interview-computer)は、その言語駆使能力を客観的に測定できるテストです。

OPIcは、評価者との対面インタビュー方式でコミュニケーション能力を測定するテストOPI(Oral Proficiency Interview)を、受験しやすいインターネット基盤で実現したテストです。英語だけでなく、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国語の計5つの言語を評価するテストを実施しており(日本では英語のみ実施)、多様な言語を同じ基準で評価できる唯一のテストとして全世界40カ国以上で導入されています。現在までに約60万人を超える人が受験している、外国語コミュニケーション能力評価テストのグローバルスタンダードです。

専門教育機関ACTFLが開発・評価した、信頼性の高いテスト

OPIcは、ACTFL(The American Council on the Teaching of Foreign Languages : 全米外国語教育協会)が開発したテストです。ACTFLは、約40年間ACTFL Proficiency Guidelines-Speaking(以下、ACTFL Guidelinesと表記)を世界のコミュニケーション能力評価の基準として提供し、OPIcとOPI(Oral Proficiency Interview)の設問の開発と評価を行っています。

※ACTFLとは

1967年に設立された世界最大の外国語教育専門機関(非営利団体)です。約1万人の教育・評価専門家や教授、小中高校の教師、教育行政家で構成されています。ACTFLは、幼稚園から大学まですべての教育課程に関わっており、世界約70の言語に対する教育と評価を提供する世界唯一の専門教育機関です。アメリカの公教育分野で言語教育の政策策定において主導的な役割を果たしているACTFLは、企業、政府、学術機関に客観的で信頼できる言語評価システム・評価基準設定を提供する最高権威の機関であり、外国語会話の学習と評価を連携する、実用的で信頼できる評価パラダイムを構築しています。

引用: OPIcホームページより転載

<http://www.global8.or.jp/opic.html>